

幼児を連れて海外に赴任されるご家族へ

小さな子どもと送る海外生活



どんな環境でも、子どもはたくましく成長します。
その成長のベースになるのは「家族の支え」と「前向きな姿勢」です。
海外生活を家族一緒に楽しみましょう。

公益財団法人 海外子女教育振興財団

幼児の発達を支えるのは、「家族みんなの力」です。

幼児の生活の中心は家庭にあります。家族みんなで幼児の成長を支えるという姿勢が、国内にいるとき以上に重要です。お兄さん・お姉さんも弟や妹を育てる役割の一端をになうことができます。海外生活は、家族の絆を強めるチャンスでもあります。

Q1

赴任後、小さな子どもと家で二人きりになることが多くなりそうで、不安を感じています。

A1

家族で力を合わせて、不安の材料をできるだけ減らしておきましょう。新しい住まいが決まったら、そこで幼児とどのような生活ができるか、みんなで一緒に考えることが大切です。

親は互いに連絡を取り合い、子どもの様子をいつも共有するよう心がけましょう。出張先からの一本の電話が大きな助けになることもあります。知人などをたどって、同じくらいのお子さんを持つ方と知り合うのもよいでしょう。そうすれば、困ったときに相談し合うことができます。

かかりつけの医師をつくり、すぐに相談ができるようにしておきましょう。近所の人に、小さな子がいることを知らせておくと、もしものときに助けを頼みやすくなります。

みんなで知恵を出し合おう



下見旅行ができれば安心度アップ



地域の子育て支援プログラムに参加



Q2 子どもとの海外生活に慣れるためのポイントを教えてください。

A2 親の元気が子どもの安心になります。まず親が新しい土地での生活を楽しむようにしましょう。イベントに参加したり、近所の人と親しくなったりするのもよいでしょう。気候や食べ物の変化は、幼児には大きなストレスになります。無理をせず時間をかけて慣らしていきましょう。

幼稚園等の事情は同じ市内でも地区によって違いがあります。以前から住んでいる日本人や現地の方々にアドバイスをもらい、情報を収集しましょう。

各地に子育ての知恵がある



Q3 言葉の発達で気をつけることはありますか？

A3 幼児が言葉を身につけていくためには、親から伝えられる言葉（母語）の多量のインプットが必要です。日本語でたくさん話しかけてあげてください。絵本の読み聞かせは、とても効果的です。日本語で友達と遊ぶ機会をつくるのもよいことです。母語が確実に育つことは、二つ目の言葉が伸びる礎ともなります。万一、言葉の発達に問題がある場合、海外にいと発見が遅れることがあります。心配なときは、専門家や相談機関に相談しましょう。

親の言葉（母語）がすべての基本



※詳しくはパンフレット『母語の大切さをご存知ですか?』をご覧ください。

幼児教育施設の選択は「トータル」で考えましょう。

海外では多様な幼児教育施設（幼稚園や保育園等）の選択肢が考えられます。それぞれの幼児教育施設の教育内容をよく理解した上で、家庭の方針をはじめ、帰国後の幼稚園や小学校への適応を含めトータルで考えていくことが大切になります。

Q4 海外にはどんな幼児教育施設がありますか？

A4 基本的に次の表に示すような選択肢があります。教育言語の違いを含め各幼児教育施設はそれぞれの方針に則って特色ある教育を行っていますので、子どもに合った選択を考えましょう。特に、この時期の教育環境はたとえ短期間であっても子どもの言語形成（母語の獲得）に与える影響は大きいということを忘れてはなりません。

<海外の幼児教育施設>

幼児教育施設の種類	形態	主な使用言語
日本人学校幼稚部	日本人学校に併設されている 日本の幼稚園教育要領に準じて運営	日本語
日本人幼稚園	日系の教育機関等が設立し、運営	日本語
ローカル幼稚園※	各国の教育制度の下で運営	現地語
インターナショナルスクール幼稚部	インターナショナルスクールに併設されている	主に英語
日本語補習授業校幼稚部	補習授業校に併設されている (定時制、準全日制)	日本語

※ローカル幼稚園・保育園（アメリカの場合）

Kindergarten	「小学校0年生」として扱われ、原則として、Elementary school（小学校）に併設されている
Preschool, Nursery, Pre-kindergarten	週2～5日、半日／全日コースなど選択できるところもある
Day Care Center	日本の保育園・学童クラブのような機能
Play Group	親同伴の育児グループ・サークル

（地域によって、名称や教育形態が異なることがあります。）

Q5

幼児教育施設を選ぶ際のポイント・留意点を教えてください。

A5

主なポイントとしては、次の三点です。

○設置団体や理念

- 公立、私立の別
- 言語（日本語、英語、現地語等）
- 園の教育方針（教育哲学、カリキュラム等）

○場所や建物の様子

- 施設、設備（園庭の有無、衛生管理・安全性等）
- 通園条件（時間・距離、送迎の手段等）

○保育環境や保育条件

- 園児の数、一クラスの人数、国籍（日本人の比率）
- 保育料等
- 園の雰囲気（教職員の園児への接し方や表情、在園児の親の様子）

直接、自分の目で見て



留意点として次の三点が挙げられます。

- 家庭の教育方針
- 子どもの性格や発達段階
- 赴任期間

幼児教育施設には、モンテッソーリやシュタイナーなどの思想に基づいた教育を行う園、宗教教育を行う園、自然の中での活動を多く行う園などがあり、教育方針や方法は多種多様です。

幼児教育施設を選ぶにあたっては、実際に訪問して直接自分の目で確かめることが重要です。また園の評判を地域のコミュニティから聞いたり、疑問に感じる事があれば、直接、電話やメール等で問い合わせたりすることもよいでしょう。

ワンポイント アドバイス

日本語以外の環境の園を選んだ場合には、家庭で日本語を使う環境を意識的に作りましょう。

Q6**赴任先には、日本人幼稚園がありません。親も現地の言葉ができず不安があります。****A6**

日本人幼稚園がない国や地域は多くあります。このような場合には、ローカル幼稚園やインターナショナルスクール幼稚園部へ通わせることになります。言葉の問題だけでなく教育方法に関する不安があることでしょう。

しかし、国は違っても幼稚園の先生方は専門知識を持ったプロです。言語の壁を乗り越えて協力体制を築いていくことはできるのではないのでしょうか。

ひとりで抱えこまずに、周りの人に助けを求めようという気持ちも大切です。そして、何よりも親子で共に成長していこうという姿勢が鍵といえます。

先生を信頼して、何でも相談しましょう

**Q7****ローカル幼稚園に入園して一か月が経ちます。言葉がわからず、お友達もできないようで、毎朝「行きたくない」と泣いて困っています。親としてどのように対応すればよいですか？****A7**

幼児にとって、親から離れて生活するのは大変なことです。海外でなくても、幼稚園に通い始めた子どもが「行きたくない」と泣くようなことは珍しくありません。しかし、子どもは生活の中で言葉をおぼえ、友達とかかわれるようになっていきます。海外の場合は生活の変化が大きいため、慣れるのに余計に時間がかかります。一か月ではまだ足りないかもしれません。しばらくは「見守る時間」と思って、幼稚園で頑張っている分、お家でリラックスさせてあげてください。幼稚園の先生と緊密にコミュニケーションをとるようにしましょう。親と先生が親しく話している姿を見せることも、子どもにとって安心の材料になります。

あせらず、明るく、根気よく



と先生が親しく話している姿を見せることも、子どもにとって安心の材料になります。

基本的な生活習慣の育成が一番大切です。

小学校学習指導要領では、学習の基礎である文字の読み書きや数の概念の学習を小学校入学後に行うよう定められています。

就学前の教育では、基本的な生活習慣の育成が一番大切なのです。

Q8 帰国して初めて日本の幼稚園に通うことになります。どんなことに気を付けたらよいですか？

A8 海外では言語をはじめ異なる様々な教育環境がありますが、日本と共通する教育内容も少なくありません。また、子どもが海外で育んだ先生や友達との信頼関係は、帰国後の園生活にもつながっていきます。海外で身につけたことを大事にしながら、不足している点を帰国後に補っていくという考え方を持つことが重要です。

なお、帰国後の入園に際しては、特に基本的な生活に関する次の三つの習慣や行動様式を身につけておくように心がけてください。

大切な生活習慣

〈健康に関する習慣〉

- ・ 早寝早起き
- ・ 毎朝の排便
- ・ 手洗い

〈自立に関する行動様式〉

- ・ 衣服の脱ぎ着ができる。
- ・ 靴の履き替えができる。
- ・ 食事は自分でとることができる。

〈学習・生活の基礎となる行動様式〉

- ・ 先生の指示を聞いたり、自分の思いを日本語で伝えたりすることができる。
- ・ 呼ばれたら「ハイ」と返事ができる。
- ・ あいさつができ、「ありがとう」「ごめんなさい」がいえる。



幼児教育施設の選択と手続きについて

- ・ 公立：住居地の市区町村の教育委員会にお問い合わせください。
- ・ 私立：園に直接お問い合わせください。

海外子女教育振興財団の事業と出版物のご案内

赴任前子女教育セミナー（東京・浜松・名古屋・大阪・福岡ほか）

海外での教育の全体像を掴んでもらうことを目的としています。海外子女教育専門の相談員が赴任先の教育に関する概要、学校選択の留意点や本財団のサービス、教科書の手続きについて説明します（受講料は無料）。

教育相談（東京・浜松・名古屋・大阪・広島・福岡・北九州ほか）

海外子女教育専門の相談員が、現地での学校選択、手続きや教育制度、現地での日本語の育成・保持、帰国後の学校選択などにおこたえします。面談のほかにも、電話、メール相談も可能です（面談・オンライン・電話相談は予約制）。

海外子女のための通信教育

海外子女専用の通信教育。幼児には、海外にいても母語である日本語を確立するのに役立つ「幼児コース」として、絵本の定期配本サービスを行っています。また、現地校等で学んでいる小・中学生には、帰国後に日本の学校にスムーズに適応することを目的とした「小・中コース」があります。

『母語を育てるということ』

本財団発行の機関誌『海外子女教育』で掲載された「母語」に関する記事や家庭でできる「日本語を育てる遊び」などを一冊にまとめた書。幼いお子さんを海外に帯同される方にお薦めです。

※会員価格はありません。

『新・海外子女教育マニュアル』

本財団の教育相談室による、出国の準備から帰国後の受け入れ等について、「お子さんの教育に関するアドバイス」を総合的にまとめた書。駐在員家族およびこれから出国を予定されているご家族にお薦めです。

公益財団法人 海外子女教育振興財団

2019年10月発行

東京本部

〒105-0002
東京都港区愛宕1-3-4
愛宕東洋ビル6階
TEL 03-4330-1352
FAX 03-4330-1355
E-mail sodanjigyo@joes.or.jp

関西分室

〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田3-4-5
毎日新聞ビル3階
TEL 06-6344-4318
FAX 06-6344-4328
E-mail kansai@joes.or.jp

ホームページ <https://www.joes.or.jp> Facebook <https://www.facebook.com/joes.kaigaishijo>

• 編集 海外子女教育振興財団 教育相談事業チーム • 印刷 タナカ印刷株式会社